

3 中心市街地のポテンシャルとまちづくり戦略の必要性

(1) 中心市街地のポテンシャル

本市の中心市街地は、北に東名高速道路、新東名高速道路及び国道1号バイパスがあり、南には沼津港、西には原駅、東には大岡駅があることから、都市構造上も地理的にも沼津市の中心的なエリアです。

これまで公共投資や民間投資が重点的に行われ、商業や業務機能、教養・文化施設などの都市機能が集積するにぎわいの中心であり、本市のみならず静岡県東部地域の経済的活動の拠点として発展してきました。

これからの人口減少・少子高齢化社会においてコンパクトシティが指向される中で、都市機能が集積し公共交通が結節する中心市街地は、まちの中心として質の高い空間を形成していく必要があります。

(2) 地域資源の活用と連携

本市の中心市街地の中央部には狩野川が流れ、駿河湾、千本松原、沼津アルプスなどの自然に近接していることから、快適な都会と快適な田舎の良さを併せ持っており、これらを活かしたまちづくりをすることが沼津らしさにつながっていきます。

(3) まちづくりの潮流

国内外の都市においては、中心市街地を自動車中心の空間からヒト中心の空間に再構築することでまちを再生している多くの事例があります。とりわけ、本市と同様に鉄道高架事業と土地区画整理事業を一体的、総合的に実施して空間を再編することにより、まちのにぎわいづくりに成功している事例が見られます。

本市の中心市街地は、優位な地理的条件と周辺の恵まれた自然環境などのポテンシャルを有しており、国内外での成功事例を参考に沼津駅周辺総合整備事業を契機とした「ヒト中心の都市づくり」に取り組むことで、県東部地域の拠点都市として大きく成長することができる好機であると考えられます。

(4) まちづくり戦略の必要性

このような取組を実践していくためには、具体的なまちづくりの将来像、具体のまちのイメージ、まちづくりの戦略が無ければできません。

また、行政だけではなく、市民や事業者の意見を伺うことや、都市交通、市街地開発、都市デザインなど様々な分野の専門家の知見を活用するとともに、多岐にわたる関係機関との協議体制を整え、総合的に検討していくことが大切です。



＜鉄道高架事業と中心市街地の活性化＞
「日向駅」（宮崎県日向市）



＜鉄道高架事業による都市空間の再構築＞
「姫路駅」（兵庫県姫路市）